

## 第472回 番組審議会

1. 日 時 平成24年2月21日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 11名

出席委員 9名

委員 長 清野 雅子

副委員 長 千葉 幸長

委員 坂本 修

委員 柴田 和子

委員 池田 克典

委員 吉江 信博

委員 鈴木 正之

委員 平 英一

委員 遠藤 雅也

欠席委員 2名

委員 望月 善次

委員 福田 泰司

社側出席者

矢後 勝洋 (代表取締役会長)

檜崎 憲二 (代表取締役社長)

石井 修平 (専務取締役)

淵沢 行則 (取締役報道制作局長)

菅野 智 (営業局長)

野田 喜代志 (報道制作局次長)

事務局

山信田 寧 (編成技術局長)

畠 義真 (編成技術局編成部長)

平山 亜希子 (編成技術局編成部主任)

4. 議 題

1. 1/28 (土) 10:30～11:25 イズム

2. その他ご覧になった番組についてのご意見

## 5. 資 料

資料として以下のものを配布

- ・ 視聴者からのご意見

## 6. 意見

### 委員側意見

○いい意味で裏切られた力作だった。関係者への取材も幅広く行って、人間性とか、人生哲学など浮彫りにしていた。

○人間性というところでは、野球の三浦投手など、子供のころ慢性腎臓病を患い、母親が「自己中心的にならないよう洗濯を自身でやらせる」などしたということで子育て論にも通じるものがあった。

○岩清水のプレーはレッドカードだったが、良いプレーであるような言い方については、相手もある試合なので、若い人に向けるものだとすると、レッドカードをよかったプレーートするのはどうなのかなと思った。カメラマンの女性の個人的な意見に振り回された感がある。

○岩手にこんな多くのアスリートがいて、被災地の子供たちに夢をもたせることができるし、競輪にも関心を持たせた。

○まとめの総括があるかと思っただけでなかった。将来に向けての一言があってもよかった。

○若い人へのメッセージが中心だったと思うが、選手がみな努力やあきらめないことの大切さを教えてくれ、若い人への啓蒙となったとおもう。

○おしつけがましいこともなく、感心した。こどもや若い人にいい教訓になった番組に仕上がった。

○三浦選手などは学生時代の映像はあったが、岩清水選手は女性カメラマンの話と現在のみで、若干ほかの3人と違っていった。

○トップアスリートならばトップアスリート、ルーキーはルーキーで分けて作ってほしい。

○「地元ならでは」ということを盛り込んでほしい。成長過程、地域とのつながり、以前の戦いであったりできるだけそれを入れるべき。

○国立大出身の三浦投手への質問で、「国立大出てプロになるというのはどうだったのか」という内容の質問は、4、50年前の話じゃないのか。いまは誰も思っていないのじゃないかと気になった。

○ボクシングの八重樫選手に「なぜチャンピオンになれたとおもいますか」という質問があったが、聞き方がいかなものかと思った。

○ボクシングジムのトレーニングの場面や三浦選手の筋トレの様子では、BGMがなく、

緊張感や空気感がよかったと思う。BGMのオンオフがよかった。

○どの選手も家族の絆や、人間としてのドラマが描かれ、引き込まれるように見た。温かみのある素晴らしい番組だった。

#### テレビ岩手側意見

○今回の番組では、日は当たらないけど、もくもくとやってきた結果、結果を残した人を紹介しようということで、主にそういう方を選定して紹介した。

○岩清水選手はフォトグラファーの目線でやったが練習を取材にいったら岩清水選手が捻挫してしまい、思ったような取材ができなかったのも影響している。

○トップアスリートということばは、夢をかなえることができた選手ということであつた。

#### 7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、関連部署に議事録を配布するなど関係者に審議の内容を伝えた。

#### 8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

・自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」

平成24年2月28日(火) (午前11時45分～11時52分放送) で、審議の概要を放送。

・支社・支局に議事録を設置

・当社のインターネットのホームページで議事録を公開